

## 農地保全研究部会誌「農地保全の研究」投稿の手引き

### 1. 編集方針

農業農村工学会農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。「農地保全の研究」の内容は、本研究部会の目的に合うものとします。内容に関する査読は行いません。

### 2. 投稿資格

著者のうち少なくとも一名は農業農村工学会員であることを投稿資格とします。ただし招待原稿はこの限りではありません。

### 3. 原稿

原稿はA4 サイズで10 頁までとし、題名、著者名・所属、本文（原則1 段組）の順として下さい。原稿執筆に当たっては「投稿論文テンプレート」をご参照ください。

### 4. 原稿提出先

農業農村工学会農地保全研究部会事務局。

### 5. その他

「農地保全の研究」に掲載された論文等の著作権（著作財産権，copyright）は、農業農村工学会に帰属します。

# 農業農村工学会農地保全研究部会 部会誌「農地保全の研究」 原稿執筆要領・テンプレート

保全 太郎\*・土壌 さくら\*\*

\*農業農村大学農学部

\*\*農村環境大学大学院農学研究科

## 1. はじめに

このテンプレートは、農地保全研究部会の部会誌「農地保全の研究」の原稿を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する情報を記述しています。執筆時にご利用ください。

## 2. 基本方針

農業農村工学会農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。「農地保全の研究」の内容は、本研究部会の目的に合うものとします。内容に関する査読は行いません。

## 3. 全体のレイアウト

### 3.1 原稿用紙

原稿用紙は、縦置き A4 用紙・横書きとします。

### 3.2 マージン

ページのマージンは、次のとおりとします。

上マージン : 25mm

下マージン : 20mm

右マージン : 20mm

左マージン : 20mm

## 4. 題目部分のレイアウト

題目部分は、論文等の題目、著者名、所属機関名で構成されます。題目部分は、本文に合わせて日本語のみ、または英語のみとします。

レイアウトは以下の通りとします。

① 題目：明朝体（英語の場合は Roman 体）14 pt, センタリング

② 空行：1 行あけてください。

③ 著者名（姓名の順）：明朝体（英語の場合は Roman 体）10.5 pt, センタリング

④ 所属機関名：明朝体（英語の場合は Roman 体）10.5 pt, センタリング

著者と所属機関名はアスタリスク（\*）の数で対応づけてください。

## 5. 本文部分のレイアウト

本文とキーワードの間に、行間スペースを 1 行設けてください。1 ページ約 40 行となるよう調整してください。本文のフォントは漢字・仮名は明朝体の全角 10.5 pt，英字・数字は Roman 体の 10.5 pt を用いてください。本文が日本語の場合、句読点は全角のピリオド (.)，カンマ (,) とします。

## 5.1 見出し

見出しのレベルは 3 段階までとします。したがって、第 3 レベルより下位の見出しは用いないでください。

### 5.1.1 見出しのフォント

見出し（章節）のフォントは、章節番号はゴシック体の 10.5pt（第 1 レベルは全角，第 2 レベル以下は半角），漢字・仮名・数字はゴシック体の全角 10.5pt，英字はゴシック体の半角 10.5pt とします。

### 5.1.2 第 1 レベルの見出し

第 1 レベル番号，全角ピリオド（例えば 4.）の直後から見出しを書きます。見出しの上に 1 行の行間スペースを設けますが，見出しの下は行間スペースを設けません。

### 5.1.3 第 2 レベルの見出し

第 2 レベルの見出しの節番号は，第 1 レベル番号，半角ピリオド，第 2 レベル番号，半角スペース（例えば 4.1）の直後から見出しを書きます。見出しの上に 1 行の行間スペースを設けますが，見出しの下は行間スペースを設けません。

### 5.1.4 第 3 レベルの見出し

第 3 レベルの見出し項番号は，第 1 レベル番号，半角ピリオド，第 2 レベル番号，半角ピリオド，第 3 レベル番号，半角スペース（例えば 4.1.4）の直後から見出しを書きます。見出しの上に 1 行の行間スペースを設けますが，見出しの下は行間スペースを設けません。

## 5.2 数式および数学記号

数式は，次に示す式 (1) のように書いてください。

$$D_f = K_r(\tau_f - \tau_c) \left( 1 - \frac{G}{T_c} \right) \quad (1)$$

数式の行は 10mm 程度のインデントを設けてください。

数学記号は，文章中に出てくる場合も，数式のフォントと同じものを用いてください。

式番号は括弧書きで右詰めにします。

## 5.3 図表

図表の例を **Fig.1** および **Table 1** に示します。図表番号の本文中の引用は**太字**にして下さい。

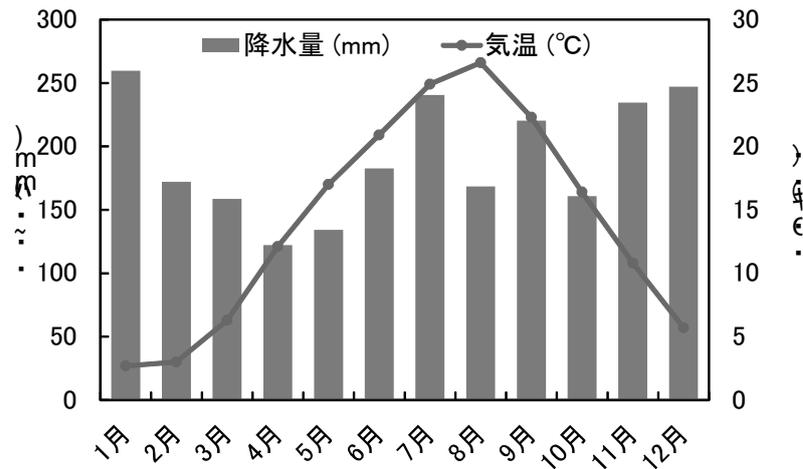


Fig.1 T市の月降水量と月平均気温の平年値

Table 1 圃場の土壌物理性

|     | $\rho_s$ (g cm <sup>-3</sup> ) | $\rho_d$ (g cm <sup>-3</sup> ) | 砂 (%) | シルト (%) | 粘土 (%) | 土性         | $K_s$ (cm s <sup>-1</sup> ) |
|-----|--------------------------------|--------------------------------|-------|---------|--------|------------|-----------------------------|
| 1層目 | 2.60                           | 0.85                           | 73.6  | 16.7    | 9.7    | Sandy Loam | $4.79 \times 10^{-1}$       |
| 2層目 | 2.61                           | 1.32                           | 85.4  | 9.3     | 5.3    | Sandy Loam | $3.03 \times 10^{-4}$       |
| 3層目 | 2.67                           | 1.28                           | 97.4  | 1.5     | 1.1    | Sand       | -                           |

### 5.3.1 図表の文字および標題

図表の文字および表題のフォントは、漢字・仮名は明朝体の全角、英字・数字は Roman 体を使用してください。

図表中の文字のサイズは 10 pt 程度としてください。

図表の標題は、10 pt のサイズで次のように記載してください。

Fig+半角ピリオド+番号+全角スペース+標題

Table+半角スペース+番号+全角スペース+標題

なお、標題の番号は **Fig.1**、**Table 1** のように太字で表記してください。

### 5.4 引用文献

文献の引用は、農業農村工学会論文集で採用されている方法に従ってください。

本文中での文献の引用は、「Fan et al. (2013) によれば,」「……といわれている (高薮・金光, 2010 ; 佐藤ら, 1996a).」のように記述してください。

引用文献はすべて本文末尾にリストとしてまとめてください。見出し文字「引用文献」はゴシック体の全角 10 pt で書いてください。引用文献リストは、漢字・仮名は明朝体の全角 10 pt, 英字・数字は Roman 体 10 pt を用いてください。

引用文献は、邦文・英文に関わらず、筆頭著者の名字のアルファベット順に並べてください。同じ発行年に同一筆頭著者の文献がある場合には、発行年の後ろに a, b, c を付けて区別してください。

引用文献は下記の書式に従って、ぶら下がりインデント（全角 1 文字分のスペース）で書いてください。

## 6. 謝辞

謝辞を記載する場合には、本文の末尾、引用文献の前に置いてください。

## 7. 講演者略歴（「農地全研究集会」講演者の場合）

引用文献の後ろに、1 行の行間スペースを設け、下の例に従って講演者略歴を書いてください。【講演者略歴】の見出しをゴシック体の全角 10.5pt とし、改行して書き出し、漢字・仮名・数字は明朝体の全角 10.5pt、英字は Roman 体の半角 10.5pt とします。また、氏名にはふりがなを付けてください。

**謝辞**：謝辞は、本文との間に 1 行の行間スペースを設けて書きます。「謝辞」という見出しをゴシック体の全角 10 pt とし、その直後から謝辞の文章を書いてください。謝辞の文章は、漢字・仮名は明朝体の全角 10 pt、英字・数字は Roman 体とし、行間は 14 pt としてください。

### 引用文献

青森県（2014）：りんご生産指導要項 2014-2015, pp.127-128.

Chow, V. T., Maidment, D. R., Mays, L. W. (1988): Applied Hydrology. McGraw-Hill, New York, 572p.

Fan, J. C., Yang, C. H., Liu, C. H., Huang, H. Y. (2013) : Assessment and validation of CLIGEN-simulated rainfall data for Northern Taiwan, Paddy Water Environ., 11, 161-173.

気象庁 (2005) : 異常気象レポート 2005, [http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/climate\\_change/2005/pdf/2005\\_all.pdf](http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/climate_change/2005/pdf/2005_all.pdf) (確認日 : 2008/12/31)

高藪 出, 金光正郎 (2010) : 力学的ダウンスケーリングのレビュー, 天気, 57(7), 435-447.

### 【講演者略歴】

保全 太郎 (ほぜん たろう)

所属 : 農業農村大学農学部

職名 : 准教授

2004 年 ○○大学大学院農学研究科修了

2004 年 △△大学農学部 助教

2016 年 農業農村大学農学部 准教授

現在に至る